

6. 健康生きがいがづくりアドバイザー（地域組織）での試行的活用：和歌山市

（担当：和歌山県健康生きがいがづくりアドバイザー協議会）

(1) 事業内容の報告

1. 事業目的：

- (1) 高齢社会の今日、「社会情勢の変化や家族構成の変化に伴い、同居や隣居を志向する人の割合が減少（厚労省）」する中、多様な住居が必要とされてきている。
高齢者住居コーディネーター達が、住み替えの相談アドバイス等を行っている。
住まいのスペース・間取り・設備等といったハード面の周辺環境については、データベース化しやすいが、ソフト面の周辺環境については、相談者のライフプラン（年金、生活設計）、医療サービス、将来ありうる介護体制を含めた相談に対して、データベースをモジュール化する必要がある。
エリアの特性を加味し、相談者のニーズに応えうるプログラムの構築を考える。
- (2) 現状のアドバイザーサポートシステム（SNS、データベース含む）を活用して高齢者の住み替えの効果や課題、問題点等を把握し、システムの改善・改良へ繋げることを目的とする。
- (3) 和歌山県健康生きがいがづくりアドバイザー協議会が、高齢者住宅情報センター（大阪）相談員の協力のもとに、和歌山で高齢者住み替え相談試行事業の相談会設けた。アドバイザー会員も対象として、高齢者の住まいや介護についての相談希望者を募り相談会を実施した。
- (4) 高齢者住宅や施設のデータベースを用いて、希望する条件にあう施設を検索し情報を提供するものであり、実際の相談の場で短所・長所の問題点等を把握し本調査での相談センター構想にフィードバックしていくものである。

2. 事業内容：

- (1) 高齢者の住み替え相談に関する勉強会
 - ・高齢者住み替え相談センター（総合）全体イメージ
 - ・地域包括ケアシステム（365日24hr サービス提供体制等）との関連
 - ・高齢者の尊厳、個別性の尊重
 - ・できる限り住み慣れた地域で住宅を基本とした生活の継続支援
 - ・要介護高齢者数の増大を踏まえたサービス全体の量質的拡充
 - ・要介護高齢者の状態像の変化を踏まえたサービスシステムの機能強化
 - ・「自助・互助・共助・公助」の役割分担を踏まえながらのシステム構築
- (2) 高齢者の住み替え相談に関するアンケート調査の実施
 - ・高齢期の住み替えの概要を説明しアンケート調査
和歌山県内等 200人以上
- (3) 高齢者住み替え相談会
 - ①相談日案内と相談者募集
 - ・日時：平成23年2月17日（木）13：00～17：00
 - ・場所：風土紀の森 紀の国文化センター 会議室
（事務所）和歌山県健康生きがいがづくりアドバイザー協議会
 - ・募集：7名

②相談会実施

(4) アンケートまとめ

(5) 試行事業報告

3. 事業の実施体制及びその他の関係団体等との連携

(1) 参加者と役割

①相談者：和歌山県新宮市 2名

和歌山県和歌山市 5名

②相談員：社団法人コミュニティネットワーク協会

高齢者住宅情報センター 大阪 相談員 田中 由利子 氏

SNS担当

和歌山県健康生きがいづくりアドバイザー協議会 市野 弘

【試行事業：担当者】

試行事業全体進行（SNS）

市野

相談者へのアンケート配布・回収

稲垣、小川

和歌山県アンケート調査

岡

アンケートまとめ

稲垣、岡

オブザーバー

藤村（財）事務局長

(2) 相談会

平成23年2月17日（木）13：00～17：00

10：30 相談会スタッフ 試行事業の事前調整打合せ

12：30 相談会最終確認

13：00～16：30 約30分×7名

16：30 相談員等でまとめ

17：30 終了

(3) アンケート

人数 219人 【内訳：地域・男女・年代】

紀の川市・岩出市 7人

和歌山市 108人

海南市・湯浅町 12人

田辺市 20人

新宮市 10人

紀南地域 13人

和歌山県外 41人

無記名 8人

男性 45人 女性 168人 無記名 6人

年齢区分

20代 2人 30代 8人 40代 24人 50代 30人

60代 88人 70代 54人 80代以上 3人 無記名 10人

4. 実施した事業の概要

(1) 事業概要

①実施日

平成23年2月17日(木) 13:00~17:00

②事業場所

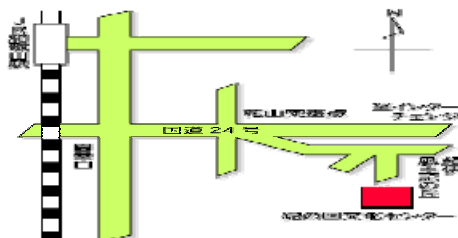
風土記の森 紀の国文化センター

〒640-8301 和歌山市岩橋1271-1

(事務所) 和歌山県健康生きがいづくりアドバイザー協議会

〒640-8301 和歌山市岩橋729-6

073-474-2248



試行事業住み替え相談会

高齢者住み替え相談について、真剣な表情で相談員に相談している。

相談員は、その質問に対する確に詳しく応えている。

必要に応じて、SNSシステムを使用し紹介等を行った。

各相談者の夫々の内容については、下記に記載する。

【相談会】

【相談会】



事業の対象

相談者：和歌山県新宮市 2名
和歌山県和歌山市 4名
紀の川市 1名
(計) 7名

相談員：社団法人コミュニティネットワーク協会

高齢者住宅情報センター 大阪 相談員 田中 由利子氏
SNS担当 健康生きがいきづくりアドバイザー 市野 弘
スタッフ (財団アドバイザー含む) 3名
(計) 5名

事業の内容

【相談の流れ】

- ・相談者受付
相談票への記入
高齢者住み替え相談に関するアンケート調査の提出
プロフィール、相談したいことを記入
- ・入室・相談
「自己紹介」
「状況ヒアリング」
「方向性提示」
「住宅・施設をデータベースで検索」
希望があれば提示
- ・終了し退出

(2) 相談記録

1) 相談ケース (1) 【記録者A担当分】

79歳女性 (一人暮らし)

地域の関係がうまくいっているので、今の地域で仲良くしている。

人たちと共同で暮らしたい。サービス過多は必要性を感じない。

A：自分の土地を有効利用して、オーナーになることも一案でないか。

69歳女性 (一人暮らし)

ふる里の和歌山に帰ってきて、地域の方とうまく暮らしている。

将来、介護を受けるようになったら～等、現在、考えられない。

A：高齢者住宅の種類を説明

75歳男性 (夫婦暮らし)

現在、賃貸マンション住まい

将来は、大阪の息子の家に行く決めてる。

A：介護保険制度の説明

75 歳男性 (夫婦暮らし 子どもなし)

自宅を処分して住み替えを検討し、和歌山で探したい。

A：自立夫婦と一緒に拾の住家を決めるには、どちらかが介護認定を受けると同じ部屋が難しくなる。

元気な時に介護付有料老人ホームを見学などして選ぶのが良い。

概要を説明し、みのり紀伊を紹介

73 歳男性 (夫婦と長女の3人暮らし)

自治会で防災対策など、地域の助け合いに取り組んでいる。

A：特にアドバイスなし。

79 歳男性 (夫婦暮らし)

家を処分して農的暮らしが夢

そのためには医療の連携も必要と思っている。

A：医療と介護の連携が必要、ゆいま〜る那須を紹介

○男性 (夫婦暮らし)

家の前に息子夫婦が住んでいる。

バリアフリー化や手すりの設置は済んでいる。

近くのクリニックが運営している施設もある。

A：治療型医療施設と老人保健施設の概要を説明

2) 相談ケース (2) 【記録者B担当分】

○女性 79 歳 (独り暮らし 娘夫婦は転勤)

介護認定は受けていないが、受けたいと思う時がある。

生活については、家事全般好きなので問題がない。

住み替えについて？

考えている。気のあったグループで住みたい。

高齢者住宅に住みたいとは思わない。

十人十色、ある程度気心の知れた人と住みたい。

仲間と離れたくない。

サービスはいらぬ。高齢者自身が責任を持つように。

しかし、孤独感はある。

○女性 69 歳 (一人暮らし)

名古屋で定年まで仕事 病気になり、茨城県の娘のところへ転居

そこで癌が見つかり、和歌山に帰る決心をする。

娘や息子のところで最後を迎えることでいいのだろうか。

1年間で3回手術 病院にかかる必要がある。

新宮の病院やアクセスを調べる。

和歌山に帰って4年目新宮に借家を見つけてネットワークが広がる。

住み替えについては今しばらくこのまま。

将来は考える。

- 男性 75歳 (45年間 東京 夫婦2人)
 まだ元気なので故郷和歌山に帰る(マンション暮らし)。
 将来、大阪の息子のところで同居する予定。
 介護が必要となるということについては考えたくない。
 最終的には息子の家で同居と思っている。
- 男性 75歳 (夫婦2人 子どもなし)
 住み替えについては、土地を処分して移り住みたい
 (土地の評価機関は?)
 どちらかが介護が必要になった場合、2人一緒には入れない。
 元気なうちに介護付き有料老人ホームを考えることも良好。
 老人ホームの質や経営状況についての情報の仕入れ方
 優良な施設かどうかについては、入居率を見るのも方法
- 男性 73歳 (夫婦2人暮らし 近くに息子夫婦)
 自宅と息子夫婦宅をバリアフリー化した。
 将来、介護が必要になると近くの老人保健施設を考えている。
- 男性 73歳 夫婦と娘の3人暮らし
 自宅の防災対策、耐震設備等について考える。
 どちらかが介護が必要になった時どうするか。
 どういう方向で医療や生活扶助が地域レベルで地域を巻き込んで行えればと考えている。
 自分自身の活動については→健康づくりを地域ぐるみで行う。
 一人暮らしの人の安全確認 自分がやることをやっていくしかない。
 若い人を引き込む、若い人にお金が入る、コミュニティビジネスなど
- 男性 79歳
 住み替えについては、新天地を求めたい。
 老人会の世話をしている。元気づける方法としてお金を稼ぎたい。
 丹波篠山に400坪 800万円の土地がある。
 みんなで農業をして作物を販売する。仕事部会をつくりたい。
 病気になったり、介護が必要になった時どうするか。
 資産はどうするか。
 丹波篠山でなくても。和歌山にも休耕地はたくさんある。
 ゆいまーる那須 70世帯 多世代で暮らす。

3) 相談ケース (3) 【記録者C担当分】

- Hさん 79歳女性、(一人暮らし 新宮市)
 持家 娘が転勤から帰ってくれば同居になる
 グループで住みたいと、共同生活をしたいと思っている。
 娘と一緒にだと…。
 気心が知れている人と住みたい。
 サービス付高齢者住宅を紹介する。
 サービスなどしないで欲しい。

自分でできる。

サロン方式、居場所があればいい。

近くに一軒家がある。

持家を貸して、グループで一緒に住むという例もある。

※データベースを活用する場面はなかった。

○Kさん 69歳女性 (一人暮らし(借家) 新宮市)

茨城県で娘の近くに暮らして孫の世話などをしていたが、

ふるさとの新宮に帰ってきた。

茨城県でガンになった。

病院が遠く、たいへんだった。

孫の世話などすごく気を遣う。

理想的には行かない。

ストレスだった。

引っ越してから健康になった。

これから先、介護が必要になったらどうするか。

子どもに頼らない。

在宅で…、全く考えていない。

相談員が住宅型、介護付有料老人ホーム、軽費老人ホーム、

特養などのそれぞれの施設の基本的な説明をする。

※ここで、フローチャートも活用する。

本人としては、今は考えられない。

暗くなる、という。(施設等のことを考えることを拒否する感じ)

帰り際には、介護が必要になったらということを考えるいい機会になったと。

○Nさん 75歳 男性 (夫婦で二人暮らし 和歌山市)

田舎暮らしをしたいなどの夢がある。

いざとなったら、大阪に息子がいるので同居することになっている。

今は自分に介護が要るようになることなど、考えないようにしている。

介護保険は高負担に思う。

介護保険でリフォームの費用の補助があることなど、利用できる制度の知識を持っておく
といい。

※データベースを活用する場面はなかった。

○Kさん 75歳男性 (夫婦二人暮らし 子どもがいない 和歌山市)

介護が必要になったときのことを考え、住み替えることも検討している。

家を処分するのに、土地の評価とかは、

どれくらい費用がかかるのか。

どの施設が信用できるのか。

有料老人ホーム、介護付、住宅型を説明。

エリア等を指定して、介護付有料老人ホームを検索する。

近くに介護と自立が一緒に入れる施設がある。

費用も入居金800万円。

近々、見学もしてみる。

今日のような相談ができる窓口があるといい。

相談にのってくれる人がいることが大事。

※データベースを活用し、施設を検索。

○Yさん 男性 (息子と同居 紀ノ川市)

今の住み替えのことは考えていない。

自宅も自費でバリアフリーにしてある。

介護が必要になった場合、近くにあるかかりつけの病院があり、

併設の施設があるから、そこに入ろうと思っている。

データベースで検索。療養型医療施設。

本人のイメージしている施設とは違う。

※データベースを活用し、近辺の施設を検索。

○Kさん 73歳 (妻と長女と同居 和歌山市)

100年近い建物に住んでいる。家の問題がある。

介護が必要になった時どうする。

近所にわかうら園という特養がある。

シニア向け分譲マンションというものも最近できてきた。

自宅で最期まで住み続けたい。

※データベースを活用する場面はなかった。

○Kさん

夢がある。

年寄りで共同生活をして、百姓をすること。

丹波篠山を見に行つた。

400坪、800万円の土地がある。

できた物を売って、儲けられたらなおいい。

前の家は売って行く。

近所には一人暮らしの仲間がいるので、その連中と行きたい。

団体で生活することの難しさ、近くに医者があるか、死んだときの資産など、問題はいろいろある。

高齢者専用賃貸住宅などの施設もあることを説明。

コミュニティネットのゆいま〜る那須のことも話題に。

※データベースを活用する場面はなかった。

【相談会：まとめ】

募集した7名の高齢者住み替え相談を受けた結果をまとめる。

性別 女性 2名 男性 5名

年齢 60～69歳 1名 70～79歳 6名

1. 地域で住居したい
2. 子どもの家族との同居を考えている
3. 元気な時に介護付有料老人ホームを調べたい

4. 互いに助け合えるような仕組みを考えたい
5. 将来、介護の必要な時の不安がある
6. 誰に相談すればいいかわからない
7. このように相談できるシステムがあれば非常に助かる
8. 今回、試行であるが相談できてよかった

(3) 高齢者の住み替えに関する調査

アンケートまとめ

人数 219人 【内訳：地域・男女・年代】

- ・紀の川市・岩出市 7人
- ・和歌山市 108人
- ・海南市・湯浅町 12人
- ・田辺市 20人
- ・新宮市 10人
- ・紀南地域 13人
- ・和歌山県外 41人
- ・無記名 8人
- ・男性 45人 女性 168人 無記名 6人
- ・年齢区分
 - 20代 2人、 30代 8人、 40代 24人
 - 50代 30人、 60代 88人、 70代 54人
 - 80代以上 3人、 無記名10人

【各会場の住居の住み替えの勉強会とアンケートの記入】

(T地域)



(WA地域)



(WB地域)



(S地域)



【アンケートのまとめ】

アンケートを回収数	219人
1. 介護の状況	
・必要なし	208人
・要介護1.2	2人
・無回答	9人
2. 住み替え	
・住み続けたい	77.6%
・住み替えしたい	18.7%
・無回答	3.7%
3. 【Ⅰ】住み続けたい (170人の複数回答)	
問1 <u>住み続けたいと思う理由は何ですか？</u>	
・友人・知人が近くに住んでいる	40.2%
・買い物や移動などの立地が便利	32.0%
問2 <u>住み続けるために、地域にあればと思うものは何ですか？</u>	
・クリニック・往診などの医療機関	46.6%
・緊急時の対応や見守りのサービス	38.4%
問3 <u>将来、住み続けるための不安がありますか？</u>	
・介護が必要となった時の不安	45.2%
・病気や入院になった時の不安	35.6%
問4 <u>住み続けられるために何らかの情報を集めたことがある？</u>	
・ない	64.8%
問5 <u>住み続けられるための不安について</u> <u>どなたかと相談したことがありますか？</u>	
・ない	60.7%
「ない」と答えた人に伺いますが、今後相談するとすれば	
・家族	60.5%
問6 <u>住み続けるために相談できる場所があれば良いと思いますか？</u>	
・思う	63.9%
問7 <u>住み続けるための相談したい内容は何ですか？</u>	
・介護、健康	52.9%
・病気、医療	39.7%
4. 【Ⅱ】住み替えを考えている (41人の複数回答)	
問1 <u>住み替え先としてどのような所をお考えになりましたか？</u>	
・子どもたち、親族の同居	26.8%
・特別養護老人ホーム	24.4%
・高齢者専用賃貸住宅	24.4%

問2 住み替えをしたいと思う理由は何ですか？

- ・介護が必要となった場合 56.1%
- ・買い物や移動が不便 39.0%

問3 住み替えることに不安はありますか？

- ・お金の不安 63.4%
- ・新しい人間関係 51.2%

問4 住み替えるために何らかの情報を集めたことはありますか？

- ・ない 82.9%

問5 住み替えについてどなたかと相談したことはありますか？

- ・ない 80.5%

「ある」、と答えた方に伺いますが、その方はどなたですか？

- ・家族 76.9%

「ない」、と答えた方に伺いますが、相談するとすれば誰にしますか？

- ・家族 81.8%

問6 住み替えについて相談できる場所があればよいと思いますか？

- ・思う 87.8%

問7 住み替えについて相談したい内容は主に何ですか？

- ・介護・健康 63.4%
- ・年金・お金 39.0%

【アンケートの感想】

- ・幅広い年齢層にアンケートを取る
 - 60才以下 29.2%
 - 61才以上 66.2%
 - 無記名 4.6%
- ・61才以上の方は、やはり現実的な思いがあり事前の勉強会にはいろいろ質問が多かった。
- ・質問事項については、簡単な内容であるがアンケートを記入した皆さんの意識が変わった。
- ・高齢者住み替え相談など総合的な相談できる場所が必要と感じた。

(2) 事後評価

【試行事業の事後評価】

1. 住まいの状況について

- ・ 8割の高齢者が現在の住宅に住み続けることを希望している。
- ・ 現在の住宅に不便を感じている。
- ・ 居宅の種類については、ほとんどの人が持ち家に住んでいる。
- ・ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境がほしい。
- ・ 住宅の老朽化、室内の段差、手すりがないことなどに不便を感じている。
- ・ 相談するところがないので、非常に困っている。

2. 健康状態について

- ・ 試行事業の相談者やアンケートを取った皆さんは、現在、健康である。
- ・ 大半の人が健康維持に対する関心が相当高い。
- ・ 介護、病気について、不安を抱えている。
- ・ 健康状態に自信のない高齢者は今後、増加してくる。
- ・ 健康や福祉サービスで困ったときの主な相談者は、家族が8割となっている。
- ・ 相談するところのないので、非常に困っている。

3. 相談会について

- ・ 相談者：和歌山県新宮市 2名
和歌山県和歌山市 4名
紀の川市 1名
(計) 7名
- ・ 相談員：社団法人コミュニティネットワーク協会
高齢者住宅情報センター 大阪 相談員 田中 由利子氏
SNS担当 健康生きがいがづくりアドバイザー 市野 弘
スタッフ (財団アドバイザー含む) 3名
(計) 5名
- ・ 相談工程：
(相談者受付)
相談票への記入
高齢者住み替え相談に関するアンケート調査の提出
プロフィール、相談したいことを記入
(入室・相談)
自己紹介
状況ヒアリング
方向性提示
住宅・施設をデータベースで検索

希望があれば提示

(終了し退出)

・相談会場：

プラバシーが守秘できる場所が必要である。

今回は、あらかじめ説明をして立会者について、了解を得た。

相談しやすい雰囲気環境が必要である。(例)花を飾る、静かなBGMなど
明るい個室が望ましい。

パソコン、プリンターなどのIT環境が必要である。

・相談時間：

時間制約があり、ゆっくりと会話相談する時間が取れない。

事前アンケート、相談票などを記入して相談したい内容をまとめてもらう。

事前調整が必要となる。

・相談内容：

記録者A

記録者B

記録者C

相談内容は、記録書を参照する。

次回には、この相談会のわかりやすい概要、主旨、相談工程表など
パネルなどを使って、説明できるようにする必要がある。

高齢相談者が、大きめのパネルを見ることでイメージ理解できる。

相談することの不安があり、目で見て理解できれば安心できる。

住み替え相談SNSシステムを起動させ地域情報を見てもらえた。

4. 相談の調査・研究と相談業務のプログラムのデータベースについて

・高齢者住み替えアドバイザーSNSメインの構成

施設検索

住替フローチャート

サポートページ

・コミュニティネットとして、相談者へのフィードバックが出来なかった。

・プログラム構成の充実を図れば期待できる。

・データベースの課題について

例えば、企業が使用している生活商品相談窓口業務で新人担当者でも簡単にフローチャートを
活用して相談を進めていく手法があり、苦情などのデータが逆に商品開発の貴重なデータとな
り、関連する部門間とのインターネットコミュニティソースとして、大きな成果が得られてい
る。

・これらの内容について、調査を進めていきたい。

(3) 今後の課題と展望

1. 高齢者住み替え相談センターとしての全体イメージが重要

住み替え相談センター（統括・総合）	健康生きがい開発財団
住み替え相談センター（窓口）	各地域での相談環境の整備
窓口の相談アドバイザー	教育を受けた人
連携ネットワーク	(専門資格者) 弁護士・社会保険労務士・社会福祉士 医者・看護師 (関連機関) ネットワーク活用

2. 地域包括ケアシステム研究会 報告書（H22年3月）

地域包括ケアシステムの構築 表（H22年9月）

地域包括支援ネットワークの取組み

- ・介護保険サービス
- ・住宅
- ・介護保険外サービス（生活支援）
- ・医療系サービス
- ・福祉・権利擁護

地域包括ケアの実現に期待される住まい・介護・医療・生活支援の新たな供給体制（日常生活圏域とは、30分で駆けつけられる圏域を示す）

- (1) 医療との連携強化
- (2) 介護サービスの充実強化
- (3) 予防の推進
- (4) 見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保
- (5) 個人の権利擁護
- (6) 高齢期になっても住み続けることができる高齢者住まいの整備

3. 住み替え相談員とSNSネットの学習強化が必要

総合相談支援・発見・ニーズ調査（地域課題の抽出）

データベースの調査として

(例) 日常生活圏域相談サービス基盤のイメージ（都市部）

エリア 人口4万人 高齢化率16%

中高層住宅に高齢化が進展し一人暮らしも多い。

高齢者人口の将来的な伸びは鈍化

サービス必要量（ニーズ） サービス供給量の算定

- ・相談者見込みの想定できれば連携データ検索が必要となる。
- 地域包括支援センター、介護老人福祉施設、特定施設等など

以上